

園長だより NO113

進級、入園から2カ月が経ちました。世の中も新年度、新学期等、同じように2カ月が経過し新たな環境に慣れて軌道にのる兆しが見えるのもこの時期です。

子ども達の生活も混んとしていた時期から次第に安定に向かっていきます。個人差はあるものの園生活もゆるやかに心地よい時が流れていく時間が増えていきます。

退職代行

保育業界にも退職代行の波が入る。4. 5月が順調に進めばそれ以降、よほどのことがない限り保育施設の従事者が退職するケースは少ないと言われていた時代が長く続いていた。

最近は年度途中でも躊躇することなく退職するケースが増えている。保育施設は4月からスタートして翌年3月31日が1年のくくりであり、クラス担任として配属されれば1年はなんとかやろうという気持ちになる。本来は退職のりの字も思い描かないような職場をつくるのが望ましいのだが・・・

先週、都内の保育園の園長と話す機会がありましたが年度がはじまりすぐに退職代行からの連絡が入ったという。まさに寝耳に水でいつも、にこにこ献身的で子どもともすぐに打ち解け期待できる保育士という印象があったという、その園に不満はないが本人の意

思なので、しかるべき退職の手続きを進めてほしいとの連絡であった。なぜ、どうして、と自問自答したが思い当たる節は考えられないという。後日、同僚から転職理由が伝わった。友達に誘われたから違う保育園に就職したという。ひと昔、ふた昔には考えられない理由であるといっていた。

求人を出しても新卒を採用するなど高嶺の時代にはいり、保育業界は人材確保に苦慮している。まあ、なんとかやりますと言っていたが年度始めの離職はかなりダメージがあるほかない。

最近就職サイトの充実もあり求職者の連絡もメールなどで対応するのが一般的ときく。保育を営む施設は都心から離ればアナログ化はぬぐえない ※デジタル化が進んでいる園も多数あります。当園は今だにアナログです。就職を希望する方は電話でその旨を伝え、所定の流れでの対応となる。おそらく今後、数年間はこんなやりとりは続けられると思う。

10年前はLINEで「やめます」と退職を伝えてくるのがメディアで取り上げられたが時代の変化とともに代行業者がでてきた、言葉でのやりとりが苦手、できない、対面すると言葉が出てこない、メールなどでは悠長に自分の思いを伝えることができるが肉声で意思を伝えられないケースが増えつつあるといえる。コロナ禍中での社会変化において人との対面での関係づくりの希薄さが浮き彫りになる。

便利な世の中だから大切にしたいこと

人との対話がなくなっている。便利なツールを使い会話する。確かに便利である。会合の参加の有無もQRコードを読み取り出欠のサイトでの対応、昭和世代には便利になったなーと感心するしかない。研修会などの感想も携帯で打ち込みポーンと送れる。昔は手間暇かけ個別に対応した、なんとも献身的な時代であった。

便利な世の中になったーと思うこの頃も便利になればなるほど人との関わりは希薄になる。せめて子ども達の生活の場所は不便なこともあっていいのではないかと私は思う、保育については効率よくといかないほうが子どもとの時間を大切に使えることもあると考える。保育で効率よくとは無駄なく手順展開を考え生活がスムーズに流れること考えた保育です。ひとり、ひとり違っていい、集団生活でもできるだけ、それぞれの子に気持ちを向け寄り添ってあげたい思いが効率を重視すると大人の都合で進んでしまう危惧がある。

保育に付随する業務については効率を重視することは多くあっても子どもの生活ではあまり馴染まないと考えます。

ある著書から今から30年も前に出版された本「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の一説で人間、どう生きるか、どのようにふるまい、どんな気持ちで送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないこと

2025.6.5

を、わたしは全部残らず幼稚園で教わった、人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく日曜学校の砂場に埋まっていたのである。

私は何を学んだのだろうか

何でもみんなでわけ合うこと

ずるをしないこと 人をぶたないこと

使ったものは必ずもとにもどすこと

ちらかしたら自分で後片づけること

人のものに手をださないこと

誰かを傷つけたら、ごめんなさいと言うこと

食事のまえに手を洗うこと

トイレに行ったらちゃんと水を流すこと

焼きたてのクッキーと冷たいミルクは体にいい

釣り合いのとれた生活をする・毎日少し勉強し、少し考え、少し絵を描き、歌い、踊り、遊び、そして少し働くこと

毎日かならず昼寝をすること。

おもてに出るときは車に気を付けること

手をつないで、はなればなれにならないようにすること

不思議だなどと思う気持ちを大切にすること

以下略

※1990 ロバート・フルガム著

便利な世の中になり、こどもの生活(世界)の中で体験できることを十分と体感しないまま育ってしまう現代に子どもの生活(あそび)のありかたを考えていなくてはなりません。

(おおぞら保育園 園長 廣部信隆)

